

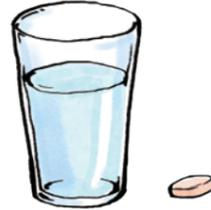


オテズラ錠によるベーチェット病*治療のはじめかた

*局所療法で効果不十分なベーチェット病による口腔潰瘍

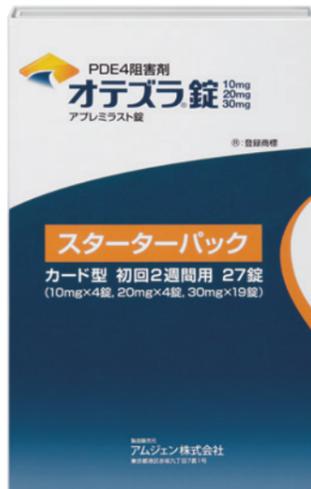
オテズラ錠は**1日2回、朝・夕に1錠ずつ**服用します。
飲みはじめから2週間はスターターパックを活用して服用します。

飲みはじめの頃におこりやすい副作用の発現を抑えるために、
 飲みはじめの6日間はお薬の量を少しずつ増やします。



1日目	2~6日目	6日目~
10mgを 1日1回(朝)服用	毎日10mgずつお薬の量を 増やしながら1日2回(朝・夕)服用	30mgを 1日2回(朝・夕)服用

●オテズラ錠のスターターパック



1週目	朝	夕	2週目	朝	夕
錠剤をおしします おしします					
1日目	/	1回お薬を 飲みません	8日目	30mg	30mg
2日目	10mg	10mg	9日目	30mg	30mg
3日目	10mg	20mg	10日目	30mg	30mg
4日目	20mg	20mg	11日目	30mg	30mg
5日目	20mg	30mg	12日目	30mg	30mg
6日目	30mg	30mg	13日目	30mg	30mg
7日目	30mg	30mg	14日目	30mg	30mg

1回1錠、正しく服用してください。

飲み方については、服用の注意を参照してください。

お薬の飲み方

- ◆ スターターパックのシートからお薬を取り出し、コップ1杯程度のお水又はぬるま湯で服用してください。
- ◆ オテズラ錠を砕いたり、割ったり、噛んだりしないでください。
- ◆ 食前又は食後、都合の良いときに服用してください。

飲み方の注意点

- ◆ 1度に2錠は、決して服用しないでください。万が一誤って飲みすぎてしまい、いつもとは違う様子がみられた場合は、すぐに医師・薬剤師にご相談ください。
- ◆ 飲み忘れた場合は、気がついたときに飲んでください。ただし次の服用時間が近い場合は、飲み忘れたお薬は飲まずに次に飲むお薬を正しい時間に飲んでください。

服用する時間や、お薬の数、服用回数などを間違えたときには、
 医師・薬剤師にご相談ください。

アムジェン株式会社

OTZ210061RX2
 2023年1月作成

オテズラ錠による治療を検討中の
 口腔潰瘍を伴うベーチェット病患者さんへ

ベーチェット病の口腔潰瘍に対する治療薬

オテズラ錠[®]について



監修

杏林大学医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科学 准教授
 岸本 暢将 先生

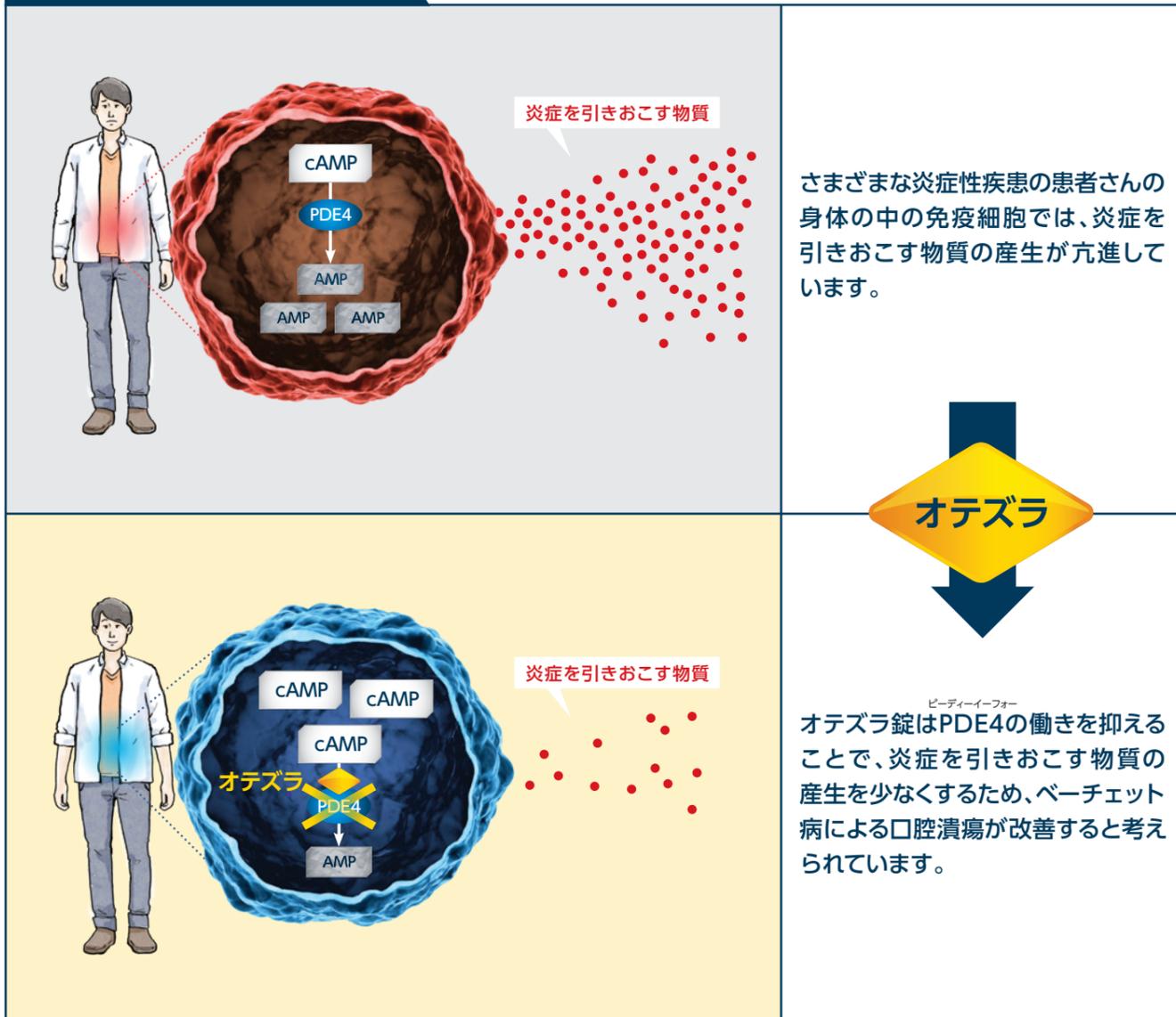
オテズラ錠によるベーチェット病^{*}治療をはじめると知っていただきたいこと

※局所療法で効果不十分なベーチェット病による口腔潰瘍

オテズラ錠とは

- **PDE4阻害剤**とよばれるタイプの飲み薬です。
- PDE4は身体の中の細胞に存在する酵素(タンパク質)で、炎症を引き起こす物質の産生にかかわっています。
- オテズラ錠は、PDE4の働きを抑えることで炎症を抑え、ベーチェット病による口腔潰瘍と、それに伴う痛みを改善します。

オテズラ錠が作用するしくみ



ピーディーイーフォー PDE4(ホスホジエステラーゼ4):身体の中の細胞に存在する酵素(タンパク質)で、cAMPという物質をAMPという物質に分解する役割があります。
 サイクロクエーエムピー エーエムピー
 サイクロクエーエムピー cAMP:さまざまな刺激に反応して細胞内の情報伝達を仲介する物質の一つです。cAMPの量が減ると、身体の中で炎症を引き起こす物質の産生が多くなり、炎症が悪化することが報告されています。
 エーエムピー サイクロクエーエムピー
 AMP:cAMPが分解されることで生じる活性のない物質です。

オテズラ錠の服用にあたって注意すること

服用前の注意

以下の項目にあてはまる方は、あらかじめ医師にご相談ください。

✓ 以前にオテズラ錠を飲んで、かゆみや発疹などのアレルギー反応がでたことがある



✓ 妊婦又は妊娠している可能性がある



服用中の注意

飲みはじめの頃には、吐き気や下痢、頭痛などの副作用がみられることがあります。

主な副作用

*オテズラ錠のすべての副作用を記載したものではありません。

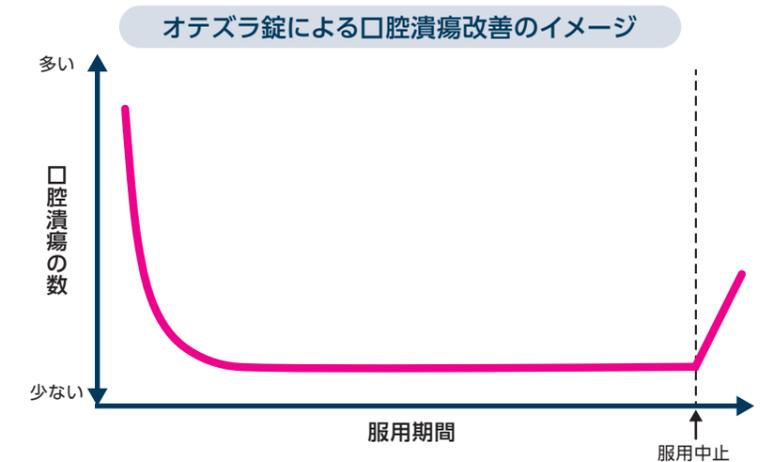
- 消化器症状(悪心、下痢、腹痛など)
- 頭痛
- 食欲減退、体重減少

消化器症状や頭痛などの副作用は発現してから約2週間でおさまることが多いですが、医師に相談したうえで、一時的にお薬を中断することもあります。無理せずに医師・薬剤師にご相談ください。



口腔潰瘍の改善を維持するためには、毎日きちんとお薬を飲むことが大切です。

- ◆ お薬を飲むのをやめてしまうと、口腔潰瘍が再発したり、数が増えてしまう可能性があります。
- ◆ ご自身の判断でお薬を飲むことをやめたり、お薬を飲む回数を減らしたりしないでください。



注意

以下の項目にあてはまる場合や、今までと違う気分の変化がみられた場合、そのほか気になる症状などがある場合は、必ず医師・薬剤師にご相談ください。また、ほかの病院を受診する場合や、薬局などでほかのお薬を購入する場合は、必ずこのお薬を服用していることを医師・薬剤師にお伝えください。

- 授乳中である
- 腎臓の病気がある
- 感染症にかかっている、又は感染症の疑いがある
- うつ病になった、又は自殺を考えたことがある
- ほかに服用中のお薬がある